（第三種郵便物認可）消費税込み定価１ヶ月3,000円・１部120円　日曜休刊

# マイウェイ my way

## シカゴで生活

修士課程の修了が近づいてきた1978年の夏に次のステップに進むことを考えだしたが、カトリック大学には教育課程論の博士課程がないことが判明した。そこで、シカゴ大学から教育学の博士号を取得した神言会の先輩に勧められて、

南山大学学長　ミカエル・カルマノ

25

## マラソン仲間　新たな出会い

とりあえずシカゴ大学のSchool of Educationに志願書を送った。指導教員に推薦書を書いてもらい、研究計画等についての書類を作成し、最後にGRE（大学院へ進学するのに必要な共通試験）を受けたが、GREの結果の通知とほぼ同時にシカゴ大学からの合格通知が届いた。そしてクリスマスが過ぎてから自分の持ち物を全て一台のステーションワゴンに詰め込んで、ワシントンを後にしてシカゴに向かって出発した。アメリカの領土の広さを実感できる、丸二日間のドライブであった。

シカゴの神言神学院の部屋で

新しい住居はHyde Parkの神言会修道院、大学まで歩いて数分のところにあった。治安がかなり悪いシカゴの南部であったが、1960年代から積極的に都市計画に関わってきたシカゴ大学の影響で、キャンパスの周辺は割合に平穏であった。ミシガン湖までも歩いて10分で、暑い夏でも湖からの涼しい風があって過ごしやすかった。ただ、この、いわゆる"Lake Effect"（湖水効果）は、冬の間には、冷風効果の要素、"Wind Chill Factor"となり、マイナス20度の温度が、体感温度としてはマイナス40度にもなることも決して珍しくなかった。

ワシントンでも続けてきたジョッギングは、シカゴで本格的なマラソン参加に発展した。指導教員もジョッギングが趣味で、何回も一緒に同じ（主に10マイルの）レースに出た。ちなみに、初めて会った時、彼が"Please call me Phil"と言ってきて、以来、授業内外でfirst nameで呼び合っていた。

ところで、神言会の宿舎には料理する人がなく、だいたい12名のグループで食事当番を決め、私も月に3回程度スーパーで買い物して、夕食を作っていた。朝はパンやコーンフレークで、昼はそれぞれの学食で食べたが、授業が少ない私は、宿舎にいることが多く、昼食を自分で何かを作るか、出かけて外食するかという苦渋の選択をせねばならなかった。どちらも面倒くさく感じ、それ以来、昼食抜きの生活になったのである。